

造影剤に関する説明書

実施する検査では、造影剤を使用する予定です。

1.造影剤使用の概要

- ① 使用目的: より詳しい情報を得るためです。
- ② 使用方法: 主に、血管(静脈)内に注入します。

2.使用する造影剤について

CT 検査はヨード造影剤、MRI 検査はガドリニウム造影剤、または、SPIO (超常磁性酸化鉄製剤) 造影剤を使用します。

3.危険性

造影剤は安全な薬剤ですが、以下のような副作用が起こることがあります。造影剤を使用した直後から症状が現れる場合がほとんどですが、まれに24時間以上経過してから生じることもあります。(カッコ内は当院における発生率です。)

- (1) 軽い副作用:吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、皮膚が赤くなる、など。(約100人につき0.6人以下)
- (2) 重い副作用:呼吸困難、意識障害、血圧低下、腎機能障害、末梢神経障害による激しい痛み、など。(約1000人に1人)
造影剤脳症(頻度不明 当院では0人)
- (3) 非常にまれですが、病状・体質によっては死亡に至る場合が報告されています。(当院では0人)
- (4) 喘息のある方は副作用が出やすかったり、喘息が誘発される場合があります。
- (5) 腎機能の悪い方は、MRI 検査で使用のガドリニウム造影剤で、非常にまれに投与後数日から数ヵ月後に皮膚の腫張、硬化、痛み等の症状が現れ、進行すると四肢関節の拘縮が生じる腎性全身性線維症といわれる病気を発症することがあります。
- (6) ビグアナイド系糖尿病薬を内服している方は、CT検査で使用するヨード造影剤を使用する場合、検査当日朝～検査後 48 時間休薬となります。

4.副作用への対応

副作用は、大半の方が軽度で、経過観察だけで改善されますが、症状によっては、お薬を注射することがあります。また、重度な場合は、入院の上、特別な治療を必要とすることもあります。

●造影剤の血管外への漏れについて:造影剤を静脈内に注射した場合、まれに造影剤が血管外に漏れることがあります。漏れた造影剤は自然に吸収されますので、心配いりません。ただ、漏れた量が非常に多い場合は、別の処置が必要になることもあります。

※ 万一、副作用、偶発症が起きた場合には最善の処置・治療を行います。緊急の処置・輸血・手術などが必要になることがあります。その際の診療も通常の保険診療にて行います。

5.造影剤を使用しない場合

限られた情報しか得られず、正しい検査結果を得られない場合があります。また、検査の意味がなくなり中止する場合があります。

説明日 _____

説明者 _____

立会者 _____

造影剤に関する同意書

前橋赤十字病院長 中野 実 様

私は造影剤投与について説明を受け

- ・ 現在の病状
- ・ 造影剤投与の具体的な内容
- ・ 造影剤投与の危険性・併発症
- ・ 造影剤を行わなかった場合の危険性・併発症

について、充分理解し納得しました。

 同意します。なお、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には適宜処置を受ける事についても同意します。 同意しません。その場合の不利益についても、納得しました。

20____年____月____日

患者氏名_____

(患者との続柄_____)

代理人氏名_____

(自署の場合の捺印は、不要です)

2020年9月15日改訂 医療安全委員会 Ver.3.0